

講師のプロフィール



川村さん 太田さん 八谷さん

おお た みつる
太 田 満

1967年6月北海道赤平市生まれ。
天理大学外国語学部ロシア語学科を卒業。ロシア語・ルーマニア語の法廷通訳を経験。
現在、旭川アイヌ語教室の講師をはじめ、(財)アイヌ文化振興・研究推進機構が実施している指導者育成事業、親と子のためのアイヌ語講座(旭川)の講師として、アイヌ語の指導にあっている。

協力者の紹介

かわ むら ひさ え
川 村 久 恵

川村カ子トアイヌ記念館副館長。旭川親子アイヌ語教室代表。

はち や ま い
八 谷 麻 衣

現在、アイヌ語を勉強中。19年度アイヌ語弁論大会弁論部門で最優秀賞を受賞。



作 川村久恵

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

現在のところアイヌ語には共通語というものはなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。今年度、このテキストでは石狩方言の会話に必要な表現と文法について学習します。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	LESSON	テ - マ	ページ
4月	6日	1	挨拶の表現	6
	13日	2	この、その、あの — 指し示す(1)	8
	20日	3	これ、それ、あれ — 指し示す(2)	10
	27日	4	何、誰 — 疑問詞を使った疑問文(1)	12
5月	4日	5	私 — 人称接辞(1)	14
	11日	6	君 — 人称接辞(2)	16
	18日	7	10までの数 — 数詞(1)	18
	25日	8	10以上の数 — 数詞(2)	20
6月	1日	9	動詞の単数形と複数形(1)	22
	8日	10	動詞の単数形と複数形(2)	24
	15日	11	数に関する表現	26
	22日	12	何処が痛みますか — 名詞の所属形	28
	29日	13	私の家族 — 所有に関する二つの表現	30

アイヌ語石狩方言・発音・表記について

>> 学習目標

本年度のアイヌ語ラジオ講座では、石狩方言の会話に必要な表現と文法を学習します。同時に石狩川流域を中心にして歴史、文化についても、できるだけ多く学習したいと思います。また、本放送上では触れませんが、「付録」としてできるだけ多くの単語をあげましたので、表現を広げる事に役立ててください。

平成16年度には旭川方言として学習しましたが、アイヌの間に伝えられてきたものとは相違する点があり、問題点についても多く指摘されてきました。その後、「旭川親子アイヌ語教室」では、先人より受け継ぎ、自らが用い、未来に伝える「自分達の言葉」としてのアイヌ語に関心が高まり、熱心に取り組む人が増えています。その中で形成されつつあるのがこのテキストで扱う石狩方言で、上川方言と空知方言の混合体である事、現代の生活に合わせて他方言よりの語彙の移植、新語の作成などの点で、下に記した歴史的な石狩方言とは異なりますので注意してください。

>> 石狩方言について

かつて川は交通の要であり、その川筋に沿ってアイヌの集団の多くが形成されました。石狩川は延長268kmに及ぶ北海道一の大河であり、その流域には大小幾つもの集団がありました。旭川では大きく三つの集団、つまり神居古潭より上流、現在の旭川市を中心に居住した peniunkur ペニウングル、神居古潭より下流、現在の滝川市、新十津川町を中心に居住した paniunkur パニウングル、石狩川下流域に居住した paratouunkur パラトウングルと分けましたが、何れも有事の際には団結し、旭川の人であっても他の地方の人に対しては誇りを持って iskarunkur イシカルンクルと自らを呼びました。この事実をふまえ浅井亨先生は「石狩方言」と名付けました。今後アイヌの伝統を尊ぶ人は iskarunkur iposse イシカルンクル イポッセ「石狩方言」の名を用いる事にします。その歴史的な分類は以下の通りです。

石狩方言	上川方言	比布方言	婚姻関係などから天塩川筋の方言と関係がある
		旭川方言	本来の「旭川方言」の他、系統の異なる北見系の方言と十勝系の方言がある
	空知方言	雨竜方言	人の往来があり天塩川筋の方言と関係がある
		新十津川方言	人の往来、婚姻関係などから浜益、千歳の方言と関係がある
石狩川下流方言		原住民の多くは死滅しており不明。幕末期には上川、空知の者が漁場の強制労働に従事させられていた。明治のはじめ札幌に住んでいた者で、旭川市に移住した者がいるが、今日の旭川方言にもそれが幾分か反映されていると考えられる。	

>> 発音について

母音は日本語と同じa, i, u, e, o(ア、イ、ウ、エ、オ)です。特に u は本来日本語と異なり口を丸めるように発音され、「オ」の様に聞こえる事があります。ただ目下、日本語の影響下で他の母音同様、日本語と同じ発音される事も多いです。

子音はc, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y(それぞれ母音アを付けて、チャ、ハ、カ、マ、ナ、パ、ラ、サ、タ、ワ、ヤ)です。ローマ字表記で ca が「チャ」と発音されるので注意が必要です。また、r は本来舌を上顎に付け破裂させる音で、時として例えば「ラ」が「タ」に聞こえる事があります。本放送で講師は本来の発音に努めますが、これも目下、日本語のラ行と同じ発音をする人が多くなっています。tu は日本語にない音であり特殊なカナで「ト」を表記されます。

先の子音のうち c と h を除いてak, am, an, ap, ar, as, at, aw, ayの様には語尾にたちます。中でもak, ap, atなどは英語などと異なる発音ですから、放送を注意深くお聞き下さい。ar は現在 r の直前の母音を響かせ「アラ」と発音される事が多いのですが、「アル」と発音しても構いません。as は「アシ」と発音されますが、旭川方言では「アス」の様に発音される事が多い、更に上流の比布方言では旭川で違和感を持たれる程全ての s が「ス」と発音されます。

日本語には「はは」、「ばば」の様には清音、濁音の区別がありますが、アイヌ語にはありませんでした。「頭」の事をアイヌ語で「サバ」と言っても「サバ」と言っても良かったのですが、今ではテキストが普通「サバ」としか表記されていないため、音で学ぶ機会が少ない現在、濁音が通じない、あるいは間違いと指摘される傾向にあります。また s の音は例えば「サバ」でも「シャバ」でも良いのですが、同じ理由で「シャバ」が通じない事があります。これらの発音をどうしていかは、学習者の意識にかかっています。

その他、石狩方言の発音として注意すべき点は、h の音がよく抜け落ちる事です。例えば、hosipiは「ホシピ」とも「オシピ」とも、ahunは「アフン」とも「アウン」とも発音される訳です。特に語頭の h はよく抜け落ちます。

>> アイヌ語の表記について

現在、アイヌ語の表記法としては、北海道ウタリ協会で編纂された教科書で採用されたアコロイタク方式が広く用いられています。しかし実際の辞書やテキストなどを見る限り、特にローマ字の表記法にはばらつきがあるようです。旭川ではアイヌ語教室で辞書編纂に当たった際、その表記法確立に苦労した末、ローマ字を正式なものとして合意しました。その表記法は一般にアコロイタク方式と理解されているものと違いがあるかも知れませんが、確認して下さい。

① 一語に綴られる時 p の前の n は m となる。

例：tampe タンペ > tan + pe

② ei, eu の様な二重母音で i, あるいは u にアクセントがない場合 ey, ew と表記される。

例：koeykesuy コエイケスイ > ko + eikesuy

：koewtaye コエウタイエ > ko + eutaye

但し、これによって語中で3子音、語尾で2子音が連続する場合は先の表記は行わない。

例：hotkeus ホッケウシ「いつも寝る」：参考 hotkewsi ホッケウシ「寝床」

先の解説でアイヌ語には様々な発音がある事を説明しました。本テキストではローマ字が標準語形を示すのに対し、特に例文のカタカナは実際の音を表すのに用います。例えば sapa 「シャバ」、hosipi 「オシピ」などです。勿論それぞれ「サバ」、「ホシピ」と発音しても構いません。後期になって文章が複雑になった時、ローマ字とカタカナがかなり違っているのに驚かれる事でしょう。



例文

1. A: Totekno es=okay ruwe?
トーテクノ エソカイ ルウェー (お元気ですか?)

B: Ru un. Pirka.
ル ウン または ピリカ (はい。良いよ。)

2. A: Pirkano okay yan!
ピリカノ オカヤン (元気にお過ごし下さい。)

B: Iyayraykere!
イヤイライケレ(ヤイライケレー) (有難うございます。)

Yaytupareno hosippa yan!
ヤイトパレノ オシッパ ヤン (気をつけてお帰り下さい。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
hosippa	ホシッパ	自動詞	帰る (hosipiの複数形)
iyayraykere	イヤイライケレ	間投詞	有難うございます
okay	オカイ	自動詞	ある、いる (anの複数形)
pirka	ピリカ	自動詞	元気になる、元気である
pirkano	ピリカノ	副詞	元気に
totekno	トーテクノ	副詞	健康に (totek「健康である」+no「副詞形成」)
yan	ヤン	終助詞	～(し)なさい



今日の学習

1. 例文1について

自分より年下の人一人に言う場合、

Totekno e=an ruwe?

トーテクノ エアン ルウェー

と言いましよう。

また、名前やekasi「おじいさん」、huci「お婆さん」などと呼びかける時は、

Huci, tokekno an ruwe?

フチー トーテクノ アン ルウェー

などと言いましよう。

2. 例文2について

自分より年下の人一人に言う場合、

Pirkano okay ya!

ピリカノ オカ ヤー

Yaytupareno hosippa ya!

ヤイトパレノ オシッパ ヤー

と言いましよう。

伝統的な挨拶の言葉と作法はありますが、今の生活で気軽にできる「こんにちは」、「さようなら」に当たる決まった表現というのはありませんでした。そこで、標準的な挨拶として定めたのが1、2の例文です。この講座ではこれらの表現を用いていきます。また、詳しい文法については後の回に順次学んでいきますので、今は暗記して使ってください。



もっと知りたい

伝統的な挨拶として二つ紹介します。

1. 成人男性同士の正式な挨拶では、対面した者同士 onkami と言って両手を胸の下あたりで幾度かゆっくり左右に揺らし掌をすり合わせた後に、掌を上に向けまた幾度かゆっくり上下させる動作をします。その後に雅語という日常使うものとは違った上品な言葉で、しかも節をつけて誦う形で挨拶の言葉が述べられます。この冒頭に irankarapte 「ご挨拶申し上げます」が用いられます。とても良い言葉であり、現在では「こんにちは」に当たる言葉として広く用いられています。旭川親子アイヌ語教室でも、子供達はまずこの言葉で挨拶するようにしています。但し、本来は先述のとおり成人男性の使うものですから、女性が使うと伝統をよく知った年寄から注意される事もありますので、気をつけて下さい。

2. 女性同士の挨拶として両手を取り合って軽く振る uekap という作法が今でも残っています。

この際 hi ya ヒーヤー という言葉が発せられます。また、この挨拶は踊りとして旭川で大切に伝承されています。



付録 挨拶に関する言葉

ekap	(他動詞)	～の手を取って挨拶する
uekap	(自動詞)	互いに手を取り合って挨拶する
erankarap	(他動詞)	(男同士)～に挨拶する
uerankarap	(自動詞)	(男同士)挨拶し合う
onkami	(自動詞)	拝礼する
koonkami	(他動詞)	～に拝礼する
ukoonkami	(自動詞)	拝礼し合う
ruyruwe	(他動詞)	(女性同士)～の手を取り撫でさすって挨拶する
ruyruye	(他動詞)	(女性同士)～の手を取り撫でさすって挨拶する
utekruyruye	(自動詞)	(女性同士)互いの手を取り撫でさすって挨拶する
uepekennu	(自動詞)	消息を尋ねる
ukoyaytakkar	(自動詞)	男同士が正式な挨拶を交わす



例 文

1. A: Tan cise poro.
タン チセ ポロ (この家は小さい。)
- B: Toan cise ka poro
トアン チセ カ ポロ (あの家は大きい。)
2. A: Tan rur runnu.
タン ルル ルンヌ (このお汁はしょっぱい。)
- B: Taan rur somo runnu.
タアン ルル ソモ ルンヌ (そのお汁はしょっぱくない。)



単 語

アイヌ語	品詞	日本語訳
cise	チセ 名詞	家
ka	カ 副助詞	～も
poro	ポロ 自動詞	大きい、大きくなる(⇔ 対義語 pon ポン 小さい、小さくなる)
runnu	ルンヌ 自動詞	しょっぱい
rur	ルル 名詞	お汁
somo	ソモ 副詞	～ない
tan	タン 指示連体詞	この
taan	タアン 指示連体詞	その
toan	トアン 指示連体詞	あの



今日の学習

1. アイヌ語の語順

例文1に見られるようにアイヌ語の語順は日本語と同じ「主語＋述語」です。後で学習する事になる目的語を伴った文でも

Horkew eper rayke.
ホロケウ エペレ ライケ
オオカミが クマを 殺す

の様に「主語＋目的語＋述語」となります。

但し、否定文では例文2に見られる様に「～ない」という意味の副詞somoが必ず動詞の前に置かれます。これは目的語を伴った文でも

Horkew eper somo rayke.
ホロケウ エペレ ソモ ライケ
オオカミが クマを ～ない 殺す
の語順になります。

2. 指示連体詞 tan、taan、toan

ほとんど日本語の「この」、「その」、「あの」に当たります。話し手から見て tan は近いもの、taan は遠いもの、toan は遥かに遠いものを指します。

但し、日本語で前に述べたものを指して「その」、話し手と聞き手が互いに了解しているものを指して「あの」と言いますが、アイヌ語でこれらは ne という別な言葉を用いますので注意が必要です。

tan などの様に名詞を修飾し、述語になれない言葉を現在までアイヌ語学で「連体詞」と呼んできました。これを「形容詞」と呼ぶ人もいますが、どう呼んでいこうとそれは日本語の問題で、一刻も早くアイヌ語の文法用語が整備されねばなりません。

3. 副助詞 ka

何かと比較して「～も」の意味で使われます。日本語よりも多用され、

Aynu ka an=nukar hi ka eramuskare.
アイヌ カ アンヌカリ カ エラムシカレ
男の人 も 私は見た 事 も なかった


の様に一つの文に何度も繰り返され、日本語にする時は訳されないことがあります。



付 録 味に関する言葉

niwrotki	(自動詞) 渋い(注意:道南八雲方言)	siw	(自動詞) 苦い
parkar	(自動詞) 辛い	supkake	(自動詞) 酸っぱい(注意:道南八雲方言)
runnu	(自動詞) 塩辛い	topen	(自動詞) 甘い

石狩紀行(1)ー石狩川①



これから一年間、この項目では石狩川流域を中心に、その歴史や文化、伝説などを紹介していきます。本来アイヌの考え方では河口からはじめるべきですが、下流部には悲しい歴史が多すぎるので、上流から下っていきたくと思います。第一回は「石狩川」です。

アイヌ語で石狩川を Iskar イシカラ と呼び、稀に Iskarpet と呼びます。延長268kmに及ぶ北海道一の大河であり、上川支庁、空知支庁、石狩支庁を貫くその流域面積は14,330km²に及び大きな人口を抱えます。

諸説あるものの語源については不明で、永田方正氏の「北海道蝦夷語地名解」によれば、上川のアイヌは太古 kotankarkamuy コタンカラカムイ(国造の神)が親指で大地に筋を付けたという伝説から is-kar-pet 「美しく・～を作った・川」と理解したといます。ただ「美しく」という意味の is という語は知られておらず、注意が必要です。それに対し空知のアイヌは、現在、江別市の地名である対雁(ついでしかり)の元になった Toyskar が元になったと考えていたようです。かつて、ユカラに謡われた様に多くのアイヌが豊かさを享受していた時代には、母なる川についての様々な伝承があった事でしょう。地名解釈も良いのですが、その地に育まれた歴史や文化、人の思いに触れていきたいものです。



例文

1. A: Taampe turep ne ya?
タンベ ドレブ ネ ヤ (それはオオウバユリの根ですか?)
- B: E. Tampe turep ne.
エー タンベ ドレブ ネ (はい。これはオオウバユリの根です。)
2. A: Toampe kito ne ya?
トアンベ キト ネ ヤ (あれはギョウジャンニクの葉ですか?)
- B: Toampe he? Somo. Toampe kito somo ne.
トアンベ ヘ ソモ トアンベ キト ソモ ネ
(あれかい。いいえ。あれはギョウジャンニクの葉ではありません。)
- Setapukusa ne.
セタプクサ ネ (スズランの葉です。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
e	エー	間投詞	(肯定の返事) はい
he	ヘ	副助詞	(疑問を表し) ~かい、~か
kito	キト	名詞	ギョウジャンニクの葉
ne	ネ	他動詞	~です、~になる
setapukusa	セタプクサ	名詞	スズランの葉
somo	ソモ	間投詞	(否定の返事) いいえ
tampe	タンベ	指示代名詞	これ
taampe	タアンベ	指示代名詞	それ
toampe	トアンベ	指示代名詞	あれ
turep	ドレブ	名詞	オオウバユリの根
ya	ヤ	終助詞	(疑問を表し) ~か



今日の学習

1. 疑問詞のない疑問文

「これはギョウジャンニクの葉ですか?」と尋ねたい場合、

Tampe kito ne?
タンベ キト ネ

と尻上がりに発音するのが最も簡単な方法ですが、普通は例文1のように文末に ya が用いられます。但し、この言葉は動詞の後にしか用いる事ができません。それに対して例文2の he は

Toampe he? あれだってかい。

Kito he? ギョウジャンニクの葉かい?

Kito somo ne he? ギョウジャンニクの葉じゃないってかい?

の様に、品詞を問わず尋ねたい言葉の直ぐ後に用いる事ができます。

2. 「はい」、「いいえ」の答え

Kampinuye 1の挨拶の例文では ru un に「はい」の訳語が付けられていました。これは Totekno es=okay ruwe? と文末が ruwe で質問されていたからです。それ以外の一般的な「はい」の答えとして e があります。今でもよく知られ、日本語の会話中にも「勿論」とか「わかったよ」など特定のニュアンスを込めて用いられるくらいです。

これらに対し、「いいえ」に当たる言葉は somo 一つだけです。

3. 指示代名詞 tampe, taampe, toampe

前回「この」、「その」、「あの」を意味し名詞を修飾する言葉 tan, taan, toan について学びました。今回学ぶのはそれらに

tan + pe → tampe

taan + pe → taampe

toan + pe → toampe


の様に「物、事」を意味する pe が付いてできている言葉で、「これは」という主語や「これを」といった目的語になります。



もっと知りたい

例文2でギョウジャンニクとスズランを間違えている場面がありました。ギョウジャンニクの葉を意味する kito, kitopiro にはもう一つ pukusa という呼名があります。スズランは若芽の時にギョウジャンニクと似ていますが毒草で食べられません。そこで seta-pukusa 「犬・ギョウジャンニクの葉」と呼ばれたのです。これと似たものにウバユリとザゼンソウがあります。ウバユリは turep ですが、ザゼンソウの若芽がこれによく似ているので kimun-turep キムンドレブ 「山の・オオウバユリ」とか ci-turep-kopa チドレブコパ 「人が・オオウバユリ・とそれを見間違える」と呼ばれました。尚、地方によってはザゼンソウを食べる事もあるようですが、上川、空知のアイヌは食べなかったようです。ただ eper-kina エベレキナ 「熊・草」の別名が示すようにクマの好物と考えられていました。

石狩紀行(2) — 石狩川②



ユカラにもその豊かさが謳われる石狩川流域は、かつて多くのアイヌ人口を抱え、早くから和人の交易船もやってきていました。江戸時代には松前藩によって対アイヌ交易が独占され、アイヌの生業であるそれまでの自由な貿易活動に制限が加えられました。当時経済の指標とされた米が作れぬ松前藩では、家臣への俸禄として商場という所でアイヌと交易する権利を与えました。そのためにもアイヌ達が他所に行って交易され

ては困る訳です。しかし、これはアイヌにも、またそれと取引をしていた本州東北部にも経済的打撃を与えました。寛文9(1669)年にはこの地を拠点とする上の国(西蝦夷)惣大将ハウカセが「松前殿は松前の支配者、私達は石狩の支配者であるから、私達がそちらに文句を言う事もない。また、そちらがこちらに文句を言うべきではない。商船をこちらへ遣しているが、それを遣さなくても構わない。昔からアイヌは米や酒など神より下げてもらった事はなく、魚や鹿ばかり下げてもらい、鹿の皮を着て生きてこられたものである。商船を遣さないで欲しい」と松前藩に対し独立を宣言しています。しかし、独立は達成されぬままになってきました。現在、旭川、空知のアイヌ語でこの独立宣言を記念し、1669年を元年として iskarunkur-toonukarpe 「石狩暦」を定めました。今年339年に当たります。



例文

1. A: Tampe nepe a?
タンペ ネベ アー (これは何だい?)

B: Tampe ratcaku ne.
タンペ ラッチャク ネ (これは灯台(ランプ)です。)

2. A: Toankur nenehe?
トアングル ネネヘー (あの人だあれ?)

B: Ipakasnukur ne.
イパカシヌクンネ (先生です。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
a	ア	終助詞	(疑問を表し) ~かい
ipakasnukur	イパカシヌクル	名詞	先生
nenehe	ネネヘ	疑問詞	誰(注:名詞nen+副助詞ehe)
nepe	ネベ	疑問詞	何(注:名詞nep+副助詞he)
ratcaku	ラッチャク	名詞	灯台(注:伝統的なものは貝殻に油を入れ芯をたてたものですが、後にはランプに対してもこの語が用いられました。現在電灯の意味で造語されたimeruratcakuの略語としても用いられます。)
toankur	トアングル	指示代名詞	あの人



今日の学習

1. 「何ですか?」の表現について

目下確認される限り上川、空知の資料に見られる、あるいは今日でも記憶されている形は例文の通りです。但し、文体的には、家族や友人の間で良くても、あらたまった場などでは使用をためらってしまいます。そこで平成16年度には他方言に倣って

Tampe nep ta an?

タンペ ネブ タ アン

これは何ですか?

という表現が作られました。これに従えば

Toankur nen ta an?

トアングル ネン タ アン

あの方は誰ですか?

の表現も可能ですが、実際には顔見知り同士で勉強しているのと、古老より注意を受けるため、アイヌ自身は用いていません。

2. nene と nepe について

疑問詞(品詞の分類は名詞) nen「誰」、nep「何」の後に前回学んだ副助詞 he が結びついたものです。石狩川筋では h の音がよく抜け落ちるのですが、ここでも e となっています。ただ h を伴った nenhe、nephe の例は全くありませんから一語として覚えていた方が良いでしょう。

例文2には nenehe という形がありますが、これは he の異形 ehe が nen に結びついたものです。同じ現象として石狩方言では「事、物、時」を意味する hi が ihi という形でも用いられます。

3. 形式名詞 pe と kur

前回 tampe が tan と pe という二つの言葉からできている事を学びました。pe は「事、物」あるいは人に関して「奴」の意味で用いられ、動詞、連体詞、動詞句と結びついて名詞、代名詞や名詞句などを作りますが、例えば日本語の「物」と異なり「物を運ぶ」などの様に単独で用いる事ができません。こういう働きをする言葉を形式名詞と言います。今回学んだ toankur は toan と kur という二語からできていますが、この kur は「(男の)人」を意味し、pe や今日の学習2で触れた hi と同様に形式名詞です。

尚、後で詳しく学習しますが、pe は母音の後で p、子音の後で pe となります。

4. 発音の注意

テキストの冒頭に発音の注意を載せましたが、他にも注意すべき事は沢山あります。幾つかの単語からなる文では様々な音の変化が起こります。特に石狩方言は、今まで皆さんが学んだ事のある他の方言より arso が asso となる様な子音の同化や nep ne yakka が nep nakka となる様な縮音が激しいため、読むと分るが聴くと分らないという事が起こりがちです。今回は他の方言にも共通する点について一つ述べておきます。☆続けて発音されると n、r の前の r は n となる。

例文2の “Ipakasnukur ne.” は、一語ずつ区切ってゆっくり発音すれば「イパカシヌクル ネ」ですが、続けて発音すれば「イパカシヌクンネ」となるのです。

石狩紀行(3) — 石狩川③

ハウカセの時代より後、松前藩士自身で行っていた商場の経営を「運上(金)」納入を条件に商人に行わせる場所請負制が確立し、アイヌは交易上の不利を被るどころか、和人の商業利益追求のための奴隷と化していきました。松前藩により石狩川には①トクピタ(徳鑑)、②ハツシャブ(発寒)、③下サツポロ(下札幌)、④上サツポロ(上札幌)、⑤シノロ(篠路)、⑥ナイボ(内保)、⑦下ツイシカリ(下対雁)、⑧上ツイシカリ(上対雁)、⑨シママツブ(島松)、⑩下ユウバリ(下夕張)、⑪上ユウバリ(上夕張)、⑫下カバタ(下樺戸)、⑬上カバタ(上樺戸)の十三場所が置かれていました。松浦武四郎の西蝦夷日誌によれば文化6(1809)年に尚アイヌ人口は①、②、⑦、⑧、⑨で1170人、③194人、④194人、⑤138人、⑥29人、⑩492人、⑪372人、⑫102人、⑬372人の計3063人と別に上川約600人を誇っていましたが、文政5(1822)年には計1058人、安政2(1855)年には計670人にまで減ってしまいました。

現在の札幌など下流のアイヌはほぼ壊滅させられ、空知、上川のアイヌが労働力、あるいは性の慰みものとして石狩浜などに下る事を強制されました。彼等の解放は明治初頭の門野クーチンコロの尽力を俟たねばなりません。しかし、それは土地、財産、生活基盤、文化、言語のほぼ全てを失う苦難の時代の始まりでした。樺太アイヌの対雁への不本意な移住も忘れてならぬ事です。今も父祖の地に住めぬ彼等の苦勞をわれわれ北海道のアイヌも心からいたわりたいものです。

辛い記述ばかりですが、月並みですが「夜明けが最も暗い」の言葉がある通り、様々な事について知識を深め、よく考えて、明るい未来を創造していきたいものです。



例文

1. A: Tampe nen kor pe a?
タンペ ネン コロ ペ アー (これは誰のもの?)
- B: Ku=kor hike. Yanke!
クコリケ ヤンケ (私の。それ(手)を上げて!)
- C: Ayo! Ayo!
アヨー アヨー (痛い。痛い。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
ayo	アヨー	間投詞	痛い!
hike	ヒケ	形式名詞	事、物(注:何かと比較して「～の方」の意味で用いる事も多い。)
ku=	ク	人称接辞	私は、私が
kor	コロ	他動詞	～を持つ
nen	ネン	名詞:疑問詞	誰
yanke	ヤンケ	他動詞	～を陸に上げる



今日の学習

1. mommom 遊び

今回の例文は mommom と呼ばれる伝統的な遊びの中で用いられる表現です。これは杉村フサ姫に教えていただきました。一人が誰かの手の甲の皮をつまみAの様に尋ねます。つままれた人はBの様に“Ku=kor hike.”と答え、更に“Yanke!”と言うと、先にAの様に尋ねた人がBの手の甲に自分の手を重ねます。そこへまた別な人がAの様にし、この様にしてどんどん手を重ねて行って、最後になった人の手を皆で引っ張り、Cの様に「痛い」と言ったら止めます。

2. 人称接辞 ku=

アイヌ語の動詞は誰、あるいは何が主語や目的語になるかで形が異なります。

例文では kor という動詞について「誰」が主語の時には kor、「私」が主語の時には ku=kor となっているのに気付かれるでしょう。この様にアイヌ語で「私」、「私達」という一人称、「君」、「君達」、「あなた」という二人称などを表す時には皆 ku= などの様な短い言葉が動詞に付きます。逆に何も付けぬと「彼」、「彼等」、「彼女」、「彼女等」、「それ」、「それ等」という三人称の意味になります。そのため例えば主語が「私」なら、

Ku=poro hine ipakasnukur ku=ne wa pirkano ku=an.

私は大きくなって先生に私はなって幸せに私は暮らしています。

の様に動詞には必ず ku= を付け、絶対省略しません。

尚、=という記号に違和感を覚える方もいるでしょう。「アイヌ語は色々、一つの言葉にも「エ」とか「ク」とか色々

つける…」と砂沢クラ姫が述べている様に、本来アイヌ語の母語話者にとって ku= は動詞にくっついて一体となったもの一接辞であり、発音も区切ったりしないところから kukor などと表記した方が良いのかも知れませんが、外国語として学ぶ者にとって理解を援けるため今の様な記号が用いられているのであって、音や読み方を示しているのではない事に注意して下さい。尚、ku=kor を ku-kor と記す人もいます。

3. 命令文

アイヌ語の動詞は三人称以外は何らかの人称接辞が付く事を学びました。しかし例文の“Yanke!”「それを上げて。」ではそれが付けられていません。この様に命令文では主語の人称接辞を付けない事をしっかり覚えて下さい。

4. 発音の注意

子音で終わる単語に母音で始まる単語が続く場合、リエゾン(連音)する。

“Ku=kor hike.”をゆっくり発音すれば「クコロ ヒケ」、あるいは「クコロ イケ」となります。後者の場合、普通の速さで発音されると kukorike、つまり「クコリケ」という発音になります。石狩方言では h が良く抜けるため、前年度学習した沙流方言と随分違って聞こえる筈です。



付録 人に関する言葉

aynu	アイヌ	(名詞)	立派な男性(注:その他①人間、②夫、③父親の意味がある)
ekasi	エカシ	(名詞)	知識と経験豊富なお爺さん
hekatci (ekatci, ekaci)	ヘカチ	(名詞)	男の子
huci	フチ	(名詞)	知識と経験豊富なお婆さん
katkemat	カッケマツ	(名詞)	立派な女性
matneekaci (matnekaci)	マツネカッチ	(名詞)	女の子
menoko	メノコ	(名詞)	女性(注:あるフチ曰く、死ぬまでmenokoである)
okkayo	オッカイヨ	(名詞)	男性
onne	オンネ	(自動詞)	年老いている、年老いる
pewre	ペウレ	(自動詞)	若い
pon	ボン	(自動詞)	①(年齢が)年下である、幼い ②(体が)小さい
poro	ポロ	(自動詞)	①(年齢が)年上である ②(体が)大きい、大きくなる

石狩紀行(4)一大雪山



石狩川の源「石狩岳(1967m)」が位置する火山群を現在「大雪山」と呼びますが、旭川周辺のアイヌは Nutapkamuytir,あるいは神名としてNutapkamuytirkamuyと呼び尊んできました。

nutapはユカラの英雄ポイヤウンペが城を構える伝説の地 Sinutapka の名にも含まれている様に、石狩川流域でも普通は河川が湾曲した部分の内側の土地を指します。しかし大雪山については「広い湿原」の意味だと尾澤カンシャトク翁は述べています。大雪山の最高峰は「旭岳(2290m)」ですが、かつて熊獵する者はこの山の神に祈ったそうです。石山長次郎翁によれば、ここには kamuymintar と呼ばれる所があり、神謡の語るところ、熊も夜には人間の姿になり、そこで遊び沼を泳ぎ、夜明けと共に慌てて天に戻ったといひます。

また、死んだ熊が皆行く墓であり、神の世界に行く雲の階段があるともいひます。この旭岳へのロープウェイ乗り場がある旭岳温泉では、以前より山開きに合わせて近文のアイヌ有志らによってカムイノミが行われています。



例文

1. A: Numan nen e=nukar ya?
ヌマン ネン エヌカラー (昨日誰に君は会いましたか?)
- B: Husa huci ku=nukar.
フサ フチ クヌカラ (フサ婆ちゃんに私は会いました。)
2. A: Tane nep e=kor ya?
タネ ネブ エコラー (今何を君は持ってるの。)
- B: Ikor newa tampaku newa hoyaykep.
イコロ ネワ タンパク ネワ オヤイケブ (お金と煙草とちり紙。)
3. A: Nisatta nep e=nu ya?
ニサッタ ネブ エヌ ヤー (明日何を君は聴くの。)
- B: Paniunkur oyna ku=nu.
パニウンクル オイナ クヌ (空知の神謡を私は聞く。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
e=	エ	人称接辞	君は、君が
hoyaykep	ホヤイケブ	名詞	ちり紙、尻拭き紙
huci	フチ	名詞	お婆さん
ikor	イコロ	名詞	お金
nep	ネブ	名詞:疑問詞	何
newa	ネワ	副助詞	〜と〜
nisatta	ニサッタ	副詞	明日
nu	ヌ	他動詞	〜を聴く、〜を聞く
nukar	ヌカラ	他動詞	〜を見る
numan	ヌマン	副詞	昨日
oyna	オイナ	名詞	神謡(注:口承文芸の一ジャンル。kamuyyukarと呼ぶ地域もあるが、石狩方言でその言葉は英雄詞曲の別名になってしまう)
paniunkur	パニウンクル	名詞	空知のアイヌ(注:上川のアイヌはpeniunkur)
tampaku	タンパク	名詞	煙草
tane	タネ	副詞	今



今日の学習

1. 人称接辞 e=

前回人称接辞について説明しましたが、この e= も「君は」、「君が」の意味で ku= のように動詞に付けて用いられます。本来この e= は自分より年下、あるいは目下の者、あるいは一人前になった男性が女性に対して用いられたもので、男の同輩同士でもこの語は普通用いられなかったようです。しかし、敬語表現は色々別な文法事項を学ぶ必要があるため、現在ではまずこの言い方から学ぶのが普通となっています。不幸中の幸い、現在石狩方言で e= 呼ばわりして不愉快に思う人はほとんどいないので、恐れず使ってみてください。

2. アイヌ語の時制

英語などを学んだ人には不思議に思われるかも知れませんが、アイヌ語の動詞は過去、現在、未来で形が変わる事はありません。勿論過去や未来を表す表現はありますが、それは特定の条件で用いられるものです。多くは例文のように、「昨日」とか「今」という言葉や文脈から、それが過去なのか現在なのか判断される訳です。よく使われますので、例文にあげられなかった言葉を幾つか紹介しておきましょう。


esin	エシン	(副詞)	さっき
kunnano	クンナノ	(副詞)	朝 (tanto kunnano 今朝)
naun	ナウン	(副詞)	最近
onuman	オヌマン	(副詞)	夕方、晩、(就寝時間前の)夜 (numan onuman 昨晚)
oyasim	オヤシム	(副詞)	あさって
oyasimsimke	オヤシムシムケ	(副詞)	しあさって
tanepo	タネポ	(副詞)	①(過去を示し)今しがた ②(tanepo naani で未来を示し)もう直ぐ
tanto	タント	(副詞)	今日
ukuran	ウクラン	(副詞)	(就寝時間帯の)夜

3. 発音の注意

☆子音の後に y が続くと y が落ちることが多い。

e=nukar ya を続けて発音すると「エヌカリー」となりそうですが、アイヌ語はリャ、リュ、リョの様な拗音を嫌います。そこで y を落として「エヌカラー」と発音されるのです。

石狩紀行(5) — 十勝岳連峰



Optateske purpurke オプタテシケ 湧く
niskur ka ta 雲の上で
kane pon ceppo 金の小魚
kamuy esinot で神が遊ぶ
e hum e hum エフーン エフーン

これは旭川で今尚歌い継がれている有名な歌ですが、ここでいう Optateske が何処を指すかについては①十勝岳連峰のうち十勝岳以南の諸山を指す、②同じく十勝岳以北を指す、③十勝岳連峰と大雪山塊を指すという説があり一定しません。アイヌ語の山名は必ずしも峰々に付けられる訳でないため、そこを源とする川の名をとって呼ばれる以外特定し難い事が多いのです。恐らく①~③の説もアイヌの考えが一定しなかった事を示すのでしょう。尚、語源については山の神々が恋争いした際、投げられた槍が逸れたという伝説と共に「槍が逸れる」と説明されます。確かに op は「槍」、teske は「逸れる」なのですが ta が分りません。今後の研究によって解明される日が来るのでしょうか。



例 文

1. sine cup
シネ チュブ (1カ月。)
2. sine menoko
シネ メノコ (1人の女性。)
3. cise sinep
チセ シネブ (家1軒。)
4. okayo sinen
オッカヨ シネン (男性一人。)



単 語

アイヌ語		品詞	日本語訳
cup	チュブ	名詞	月(注:本来は天体を指すが日本語同様時間の単位としても用いられる)
menoko	メノコ	名詞	女性
okayo	オッカヨ	名詞	男性



今日の学習

1. 数詞の形態

数	連体詞	名詞(個数)	語尾	名詞(人数)	語尾
1	sine	sinep	-p	sinen	-n
2	tu	tup	-p	tun	-n
3	re	rep	-p	ren	-n
4	ine	inep	-p	inen	-n
5	asikne	asiknep	-p	asiknen	-n
6	iwan	iwampe	-pe	iwaniw	-iw
7	arwan	arwampe	-pe	arwaniw	-iw
8	tupesan	tupesampe	-pe	tupesaniw	-iw
9	sinepesan	sinepesamp	-pe	sinepesaniw	-iw
10	wan	e	-pe	waniw	-iw

アイヌ語の数詞には表に見られるように3つの形があります。まず例文1、2の様に「1つの～」とか「1人の～」と言う時には、表の左側の形、つまり sine という連体詞を用います。それに対して例文3、4の様に「1軒」とか「1人」と言う時には sinep とか sinen という名詞を用います。これら連体詞や名詞が数を表すところから、まとめて数詞と呼びます。

さて、個数を表す列を見てみましょう。語尾が p のものと pe のものがある事に気付くでしょう。これらは Kampinuye 6の今日の学習3で学んだ形式名詞です。その最後に少し触れた様に e、u という母音の後で p、そして n という子音の後で pe という形になっています。この sinep、tup 以下の形は「ひとつ」、「ふたつ」と物を数えるだけでなく、「1匹」、「2匹」、「1頭」、「2頭」と魚や動物、あるいは人でも子供や女性を「1人」、「2人」と数えるのに用いられました。ただ女性に関してはクレームもありますので、今後使用を控えた方が良いでしょう。

次の人数を表す列でもやはり、語尾が n のものと iw のものがあります。これも母音の後が n、子音の後が iw となっています。この sinen、tun は専ら人を数えるのに用いられます。

尚、余談となりますが、今までの学習で出てきた nep 「何」、nen 「誰」は、それぞれ ne(何れの)+p(物、者) → nep 何れの物、何れの者
ne(何れの)+n(人、者) → nen 何れの人、何れの者
という成り立ちをしています。

ne は「何れの」という意味で疑問を表す連体詞です。

p は形式名詞ですが、nは使用がほぼ数詞に限られるためか「人」を意味する接尾辞とされています。

iw も接尾辞とされますが、icaniw 「サクラマス」、kapariw 「カレイ」など人以外のものにも使われており、古いアイヌ語を探る時の手掛かりになるかもしれません。

2. アイヌ語の月名

例文の中には出てきませんでしたが、日付をアイヌ語で言うためにも月名も覚えておきましょう。もっとも、かつてはカレンダーなどなく、月名はあっても日付を言う習慣もありませんでしたが、今日アイヌ語で生活しようとする必要になるでしょう。月名は石狩川筋でも違いがあったようで、現在旭川のものとは南空知の栗山の二つが分かっています。ここでは旭川のものをご紹介します

1月	inomicup	イノミチュブ	神に祈る月
2月	taskurcup	タシクルチュブ	しばれる月
3月	toetanne	トエタンネ	日が長くなる?
4月	upasrurcup	ウパシルレチュブ	雪を溶かす月
5月	muntukkacup	ムントッカチュブ	草を伸ばす月
6月	toytacup	トイタチュブ	土を掘る月
7月	kunneyascup	クンネヤシチュブ	夜に流網漁する月
8月	kunnesuscup	クンネスシチュブ	夜に水浴する月
9月	yascup	ヤシチュブ	流網漁する月
10月	konnirancup	コンニランチュブ	フキの茎が枯落ちる月
11月	nitekrankecup	ニーテ克蘭ケチュブ	木の枝が枯落ちる月
12月	upasrankecup	ウパシランケチュブ	雪が枯落ちる月

それぞれの季節に旭川近郊に来られると、今では確認しようのない漁を除き、どの月名もびたりと合っているのが分ります。



例文

1. sine to ikasma wan to
シネ ト イカシマ ワン ト (11日。)

2. sinep ikasma wan pa
シネプ イカシマ ワン バ (11年。)

3. atuyta hot eper
アドイタ ホツ エペレ (120頭のクマ。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
atuyta	アドイタ	名詞:数詞	100人、100匹、100個 など
eper	エペレ	名詞	①クマ、②1才の仔グマ
hot	ホツ	名詞:数詞	20人、20匹、20個 など
ikasma	イカシマ	自動詞	余る
pa	パ	場所名詞	(時間の単位としての)年、年齢、～歳
to	ト	場所名詞	日



今日の学習

1. 11から19まで

前回の学習から例文1、2の sine、sinep、wan についてはお分かりの事と思いますが、その語順や文型に驚かれるでしょう。例えば11日なら十の位からはじまっても良さそうなのに、最初に来るのは一の位です。しかも「日」を意味する言葉が繰り返され、ikasma という言葉まで入っています。しかし、アイヌ語で10以上の数は基本的に小さい位から大きい位へと数を言っていきます。そして、その際例文1の様に sine などの連体詞の後に数える対象を示す言葉を繰り返し、その間を ikasma で結んでいきます。但し、これでは言葉が長くなって言いにくいので、実際には例文2の様に sinep などの名詞を言いき、最後に数えられる対象の言葉を使う事もありました。また、これがどれ程一般的であったか不明ですが、砂沢クラ媼は例えば「17才」を wan pa ikasma arwan としました。他に例文3がクラ媼の表現ですが、先程述べた小さい方から位取りする原則から外れてしまうため一の位まで言う場合にはどうすれば良いか問題を抱えています。

具体的解決策は今後の課題として、11～19まで物を数える時と人を数える時の形を示しておきましょう。

11個: sinep シネプ	ikasma イカシマ	wampe ワンペ	11人: sinen シネン	ikasma イカシマ	waniw ワニウ
12個: tup ドプ	ikasma イカシマ	wampe ワンペ	12人: tun ドン	ikasma イカシマ	waniw ワニウ
13個: rep レプ	kasma イカシマ	wampe ワンペ	13人: ren レン	kasma イカシマ	waniw ワニウ
14個: inep イネプ	ikasma イカシマ	wampe ワンペ	14人: inen イネン	ikasma イカシマ	waniw ワニウ
15個: asiknep アシクネプ	kasma イカシマ	wampe ワンペ	15人: asiknen アシクネン	kasma イカシマ	waniw ワニウ
16個: iwampe イワンペ	ikasma イカシマ	wampe ワンペ	16人: iwaniw イワニウ	ikasma イカシマ	waniw ワニウ
17個: arwampe アラワンペ	kasma イカシマ	wampe ワンペ	17人: arwaniw アラワニウ	kasma イカシマ	waniw ワニウ
18個: tupesampe トペサンペ	ikasma イカシマ	wampe ワンペ	18人: tupesaniw トペサニウ	ikasma イカシマ	waniw ワニウ
19個: sinepesampe シネペサンペ	ikasma イカシマ	wampe ワンペ	19人: sinepesaniw シネペサニウ	ikasma イカシマ	waniw ワニウ

2. 20以上について

hot は名詞で、先に確認したようにそれだけで「20人」とか「20個」とかを意味します。「20の」と言いたい時には hotne という言葉がありますが、石狩方言としては目下ほとんど用例を見かけません。

さて、20以上ですが、特に旭川では何時ごろからか

30 rehot	60 iwanhot	90 sinepesanhot
40 inehot	70 arwanhot	100 atuyta
50 asiknehot	80 tupesanhot	

と、30以上では hot を「10」の意味で用いるようになりました。また「100」の atuyta は本来ある動物が「20匹」、毛皮が「10枚」である事を指す言葉ですが、何故これが「100」の意味になったのか分かりません。何れにしても、これらは日本語との接触により生じたもので、アイヌ語本来のものではありません。本来は、

40 tuhot	100 asiknehot	160 tupesanhot
60 rehot	120 iwanhot	180 sinepesanhot
80 inehot	140 arwanhot	200 wanhot

です。何故か静内でも旭川と同じ言い方をするそうですが、これで覚えてしまうと他の方言を話す相手と行き違いが生じます。現実には二通りの言い方を理解し、使い分けていたようですが、それでは学習者に大きな負担をかけてしまいます。そこで旭川では現在99までを他の多くの方言に通じる語形で学んでいます。以下にそれを記します。

20 hot			
21 sinep ikasma hot			
30 wampe ikasma hot	あるいは	wampe etuhot	
31 sinep ikasma wampe ikasma hot	あるいは	sinep ikasma wampe etuhot	
40 tuhot			
50 wampe ikasma tuhot	あるいは	wampe erehot	
60 rehot			
70 wampe ikasma rehot	あるいは	wampe einehot	
80 inehot			
90 wampe ikasma inehot	あるいは	wampe easiknehot	
100 atuyta	(但し、asiknehot も可とする。)		

ちなみに1,000は wanatuyta、10,000は ik と旭川アイヌ語教室では新たに決めました。



例文

1. Sine menoko an.
シネ メノコ アン (1人の女性がいます。)

2. Wen eper okay.
ウエン エペレ オカイ (悪いクマが複数いる。)

3. Utar opitta hoyuppa, kira korka iyotta
ウタラ オピッタ ホユツパ キラ コロカ イヨツタ
iosi honi poro menoko hoyupu, ek.
イオシ ホニ ポロ メノコ ホユプ エク
(仲間全員が走り、逃げたけれどその一番後からお腹の大きい女性が走り、来た。)



単語

アイヌ語		品詞	日本語訳
an	アン	自動詞	ある、いる、暮らす(注:複数形okay)
ek	エク	自動詞	来る(注:複数形arki アラキ)
honiporo	ホニポロ	自動詞	妊娠する、お腹が大きい
hoyuppa	ホユツパ	自動詞	複数走る(注:単数形hoyupu)
hoyupu	ホユプ	自動詞	走る(注:複数形hoyuppa)
iosi	イオシ	副詞	その後から
iyotta	イヨツタ	副詞	一番、最も
kira	キラ	自動詞	逃げる
korka	コロカ	接続助詞	～(だ)けれど、～(だ)が
okay	オカイ	自動詞	複数がある、いる、暮らす(注:単数形an)
opitta	オピッタ	後置副詞	～の全員
utar	ウタラ	名詞	仲間、一同、一族、親戚



今日の学習

1. 動詞の単数形、複数形

日本語と違い、アイヌ語では動詞に単数形と複数形があります。「天気が良い」など意味的に複数形がないもの、あるいは逆に単数形がないものもありますが、多くの動詞には基本的に単数形と複数形があります。単数形が複数形を決める要因は幾つかありますが、全てに共通するのは主語の数です。つまり、主語が1人、1個など単数であ

れば動詞も単数形、複数であれば動詞も複数形になる訳です(注)。例文1、2、3がそれを示しています。複数形の基本形は、動詞の単数形+pa(例:kirapa)ですが、これについては今後例文の中に出てきた時のみ触れる事とします。

その他 hoyupu→hoyuppa の様に 動詞の単数形より最後の母音を外したもの+pa という少し変わった変化をするものもあります。

また、例文に出てきませんでした、

ahun「入る」など n に終わる自動詞の幾つかの複数形は、動詞の語尾よりnを外したものと+p になります。これは ahun の他、asin「出る」、ran「下りる」、rikin「上がる」、san「(山から浜の方に)出る」、yan「陸に上がる」だけです。その他ごく少数ですが、an→okay の様に全く語形が異なるものがあります。例文に複数形はありませんが、ek→arki がそうですし、よく使う自動詞として a→rok「座る」、as→roski「立つ」、oman→paye「行く」などがあります。

(注)主語が無生物の場合、主語が複数でも動詞が単数形になる事がよくあります。また例文3の kira の様に基本形の変化をするものは、主語が複数でも動詞が単数形になる事が多いのも事実です。

2. 自動詞と他動詞

自動詞と他動詞をしっかりと区別しなければ、正しくアイヌ語を使えません。今回例文に出てきたのは全て自動詞ですが、これらは「～は」、「～が」という主語となる言葉としか用いる事ができません。「～に」、「～を」という目的語となる言葉を言いたい場合には他動詞を用いなければなりません。他動詞としては、例えば、Kampinuye 5に kor「～を持つ」を学びました。「男がちり紙を持つ」なら“okkayo hoyaykep kor”となります。自動詞と他動詞については、今後繰り返し注意を促していきます。

3. 接続助詞 korka

接続助詞とは文と文を繋ぐ言葉ですが、接続詞と違い基本的に動詞の後でしか用いられません。但し、独立用法と言って、「しかし」と日本語で話をはじめる様に文頭に用いる事もできます。

石狩紀行(6)一茅苳別



石狩川の左岸支流である「留辺志部(るべしべ)川」の右岸支流「茅苳別(ちかりべつ)川」は現在上川支庁上川町を走る国道273号線沿いの中越でその川口付近を確認できます。おそらく今ここを通る人の中に、車を止めて往時に思いを巡らす人もいないのではないのでしょうか。しかし、かつてここは旭川のアイヌにとって大切な歴史の地であり、魚釣り場でもありました。

砂沢クラ嬢はこの川の名を「チクルベツ」とし、かつて他の地より100人以上のアイヌが旭川のアイヌを攻めた際、旭川の生き残りの若者が石狩川中流の若者2人と協力し、終にこの地で敵を全滅させたという話を伝承しています。また、和人が道を作ってから、ここをアイヌが歩くと大きな鳥が列をなして飛び、鳴いたと言います。その鳴声をアイヌは

Ci=e rok pe ta ci=e!

チエ ロツベ タ チエ

我らが食べた物を我等は食べたい

と聞いたそうです。クラ嬢がまだ小さい頃に親戚と来て小屋をかけ、魚釣りをしたそうですが、後年嬢は「今はどう成っているか。七十三才に成ってもあの美しい野原忘れられません」と書き残しています。美しい自然が隠された財宝を何時までも守ってくれたら良いと思います。



例文

1. Pewre utar apapa eworun osurapa.
ペウレ ウタラ アババ エウォルン オスラパ (若者達がヘビを沢山水中に投げ込んだ。)
2. Menoko utar opitta ku=hosippare.
メノコ ウタラ オピッタ クオシツパレ (女達をみんな私は帰した。)
3. Cise ci=asi.
チセ チアシ (家を私達は建てた。)
4. Eper poronno okay.
エペレ ポロンノ オカイ (クマが沢山いる。)
5. Ciep poronno an.
チエブ ポロンノ アン (食糧が沢山あった。)



単語

アイヌ語	品詞	日本語訳
asi	自動詞	～を立てる、(家)を建てる(注:複数形roski ロシキ)
ci=	人称接辞	(話相手を含めない)私達は、私達が
ciep	名詞	食糧
eworun	副詞	水中に
hosippare	他動詞	(人)を帰す、(もの)を帰す(注:単数形hosipire ホシピレ)
osurapa	他動詞	～を複数投げ捨てる(注:単数形osura オスラ)
pewre utar	名詞	若者達
poronno	副詞	沢山
utar	形式名詞	～達、人々



今日の学習

1. 動詞の目的単数形、目的複数形

動詞の単数形、複数形は主語の数で決まると前回学びました。これは英語などでもお馴染みの事だと思います。ところが、アイヌ語ではもう一つ、他動詞の目的語が複数の場合、主語が単数でもその他動詞は複数形になるという決まりがあります。こういう要因で決まるものを「目的複数形」と言います。また逆に主語が複数の場合でも目的語が単数の場合に他動詞が単数形になる事があります。こういう要因で決まるものを「目的単数形」と呼びます。

例文1では主語も目的語も複数ですから、どちらの要因で複数形になっているのかわかりませんが、例文2は主語が「私は」という単数なのに hosippare という形になっています。これは目的語が「女達」という複数なので先に述

べた目的複数形になっているのです。また、例文3は主語が「私達は」という複数なのに asi という形になっています。これは目的語の「家」が単数なので、目的単数形になっているのです。

2. 動詞の単数形、複数形の例外

何かが沢山いるという事は、当然その何かは複数という事になります。例文4もそれを示し動詞は複数形の okay となっています。しかし、例文5では単数形の an が用いられています。アイヌ語ではよく無生物に関して、それが複数であっても単数扱いする事があります。しかし“esotkap poronno ek”「カジカが沢山来た」の様に、生物でも単数を用いる例もあります。実は poronno など数量を示す言葉が用いられる場合、動詞は必ずしも複数形にしなくて良いのです。

3. 形式名詞 utar


前回の例文3 “Utar opitta hoyuppa, kira…” 「仲間全員が走り、逃げ…」の中で utar は名詞でしたが、この utar は「～達」の意味で Kampinuye 4の3で学んだ pe や kur と同じ形式名詞です。今回の例文1の pewre utar は動詞「若い」+形式名詞「人々」で「若者達」の意味になっていますが、これは他の形式名詞に共通する用法です。それに対して例文2の menoko utar は名詞「女」+形式名詞「達」で「女達」の意味になっていますが、これは他の形式名詞には見られぬものです。名詞の複数形を作るのに便利な言葉ですが、人や他の生物以外の無生物についてほとんど用いられません。



付録 人の職業、身分に関する言葉

cepkoikur (名詞) 漁師	kotankorkur (名詞) 村長	toytakur (名詞) 農家
emuskorpe (名詞) 警官	kusurieyyokkur (名詞) 薬売り	ussiw (名詞) 召使
ikaoykikur (名詞) 医者	nispa (名詞) 金持ち、物持ち	wenkur (名詞) 貧乏人
kimunkur (名詞) 猟師	tono (名詞) 和人の役人	

石狩紀行(7)―安足間



石狩川の右岸支流として現在上川町を流れる「安足間(あんたろま)川」。その何処かは分かりませんが、岩崖の途中に洞窟があり、クマがそこを棲みかとしていました。砂沢クラ焔の母方の祖父、荒井テンラ翁は勇気があり、またロシア人の血を引いて体格も良かったので、崖の上から綱で下りては洞窟の中に入り、直接クマを刺し殺すという猟法をとっていたと言います。クラ焔によれば、

Eper anakne poru oske ta anakne aynu koyki p somo ne yak a=ye.
クマというのは穴の中では人を襲うものではないそうだ。

とテンラ翁は言ったそうですが、並みの人にはできる事ではありません。こういう昔の人の知恵と勇気を持ちたいものです。

さて、この安足間の語源に関して永田方正氏は Andar' omap で「淵」と訳し「『ハッタロマ』ト同じ」としました。hattar 「淵」と andar を結びつけるのは相当無理があると思いますが、上手く説明する言葉が見つからなかったのか、知里真志保氏も ar-taor-oma-p 「片側・高岸・ある・者」という自説を出しながらも永田説を否定してはいません。現在でもここはオオウバユリを掘る場所の一つです。オオウバユリを掘りに行く道を an=ta ru 「人が・～を掘って採集する・道」と言いますが、まさにここは antaru-oma-p 「オオウバユリを掘りに行く道が・そこに入る・所」です。近年地名研究に関して地形から全てが分るという迷信が広まっていますが、それを名付けたアイヌの言語、文化、歴史の調和のとれた十分な理解なしに行われるのであれば、アイヌ語らしきものによる新しい地名付け遊びになってしまいます。



例文

- Okkayo ren, menoko tun an.
オッカヨ レン メノコ トン アン (男が3人、女が2人いた。)
- Atuyta pakno okay. (= Atuyta pak okay.)
アトイタ パクノ オカイ (アトイタ パク オカイ) (100人ぐらいいる。)
- Hot akkari okay.
ホツ アッカリ オカイ (20人以上いる。)
- Pewre utar hoski tunne paye, osi
ペウレ ウタラ ホシキ トンネ パイエ オシ
sinenne ku=oman.
シネンネ クオマン (若者達が先に2人で行き、その後から1人で私は行った。)
- Cep repne ku=tuye.
チェブ レブネ クトイェ (私は魚を3つに切った。)



単語


アイヌ語	品詞	日本語訳
akkari	後置副詞	～以上
cep	名詞	魚
hoski	副詞	先に、最初に
osi	後置副詞	～の後から
pak	後置副詞	～くらい、～程
pakno	後置副詞	～くらい、～程
repne	副詞	3つに、3匹で
sinenne	副詞	1人で
tunne	副詞	2人で



今日の学習

- 動詞の単数形、複数形の例外
例文1では男3人、女2人の計5人が主語ですから、動詞は複数形になりそうなものですが、実際には単数形 an が用いられています。この様に主語が複数でも数が明確に示されている場合、動詞は単数形になります。同じ様に目的語が複数でも数が明確に示されている場合は目的単数形になります(注)。数詞が使われても例文2、3の様に近似値を示している場合は複数形が用いられます。
(注) 目的単数形になる場合でも、主語の数によって動詞が複数形になる場合があるので注意して下さい。
- 副詞と後置副詞
これまで副詞と後置副詞という言葉が度々出てきました。特に「後置副詞」は聞き慣れない言葉です。後置副詞は副詞の一種ですが、他動詞の様に目的語をとるところが副詞と異なります。例文2の pakno、あるいは pak は atuyta を、例文3の akkari は hot を目的語としています。例文4の osi は pewre utar の代名詞である「彼等」を目的語としていますが、アイヌ語で三人称の人称接辞は示されないのので osi という形なのです。
- 副詞 sinenne
「～人で」という表現をしたい場合 Kampinuye 7で学んだ 「～人」という名詞(数詞)+ne という形で示されます。「1人で」から「10人で」という形を例示すれば
1人で sinenne 4人で inenne 7人で arwaniwne 10人で waniwne
2人で tunne 5人で asiknenne 8人で tupesaniwne
3人で renne 6人で iwaniwne 9人で sinepesaniwne
但し、「6人で」以上は例が見られず、規則に従い旭川アイヌ語教室で新たにつくったものです。「～匹で」とか「～つに」という表現をしたい場合は同様に 「～匹」、「～個」という名詞(数詞)+ne という形で示されます。
尚、この表現で用いられた ne はいろいろな名詞と結びつき副詞を作ります。幾つか例をあげれば、
erucikinne 裸足で (eru「ただの」+cikir「足」+ne「になって」)
ikawarine 代理で (i「人」+kawari「かわり(日本語)」+ne「になって」)
inecikinne 四つん這いで (ine「4本の」+cikir「足」+ne「になって」)
などがあります。

石狩紀行(8)－愛別



現在、上川支庁愛別町の町名のもとになった「愛別(あいべつ)川」はアイヌ語で Aypet です。その語源については諸説あります。矢を ay、川を pet と言いますが、川が矢の様に早いから「矢川」であるという説、攻めて来た十勝アイヌの長が敗れ、矢に射られて崖からこの川に落ち、矢が流れたので名が付いたという説、あるいは hay がイラクサの繊維であるところから「イラクサ川」という説。どれも胡散臭いけれど、これというものがいないため、否定できません。

ところで十勝の他、地方から旭川方面を攻める際、ここは通り道としてよく使われていたのでしょうか、砂沢クラ嬢が伝える伝説では、かつて釧路アイヌが攻めて来た際、やはりここを通過しようとしていました。ところが崖の上で裸の女が踊っていて、男達はその女に目を奪われているうちに乗っていた船が崖に激突し全滅してしまったといいます。「本当に男の性は度し難い」とわが身に当てて苦笑してしまいます。この女が人だったのか神だったのか伝わっていません。ただ名寄アイヌの北風磯吉翁の伝承では上流の層雲峡あたりにパウチという魔物が一人の大変良い女と暮らしていたといいますから、その女神様だったのかも知れません。

Kampinuye 12(Tup ikasma wampe) 何処が痛みますか

カンピヌイエ ドブ イカシマ ワンペ 一名詞の所属形



例文

1. A: Neoro arka ya?
ネオロ アラカ ヤ (何処が痛いのですか?)

B: Ku=sapa arka. Ku=cikiri ka arka.
クサパ アラカ クチキリ カ アラカ
(私の頭が痛い。私の足も痛いです。)

A: Teoro arka ya?
テオロ アラカ ヤ (ここは痛みますか?)

B: Taanero somo arka
タアネロ ソモ アラカ (そこは痛くありません。)



単語

アイヌ語	品詞	日本語訳
arka アラカ	自動詞	(内部から) 痛む (注:これに対して打撲など外傷による痛みはiunin イウニン、イユニン と言いますが、何時しか外傷によるものもarkaと言うようになり、現在では全く忘れられている)
cikiri チキリ	名詞	(cikir「足」の所属形) ~の足
ku= ク=	人称接辞	私の
neoro ネオロ	位置名詞:疑問詞	~の何処
sapa サパ	名詞	(sapa「頭」の所属形) ~の頭
taanero タアネロ	場所名詞	そこ
teoro テオロ	場所名詞	ここ



今日の学習

1. neoroについて

nen「誰」、nep「何」の構成要素であった ne「何れの」と oro「~の所」という言葉から来ています。これに対応する言葉として teoro、taanero がありますが、「あそこ」の意味で予想される toanero は確認されていません。尚、neor、teor の形も確認されていますが、taaner は確認されていません。

2. 名詞の概念形と所属形の意味と用法

例えば「AのB」と表現する時、日本語ではAという言葉とBという言葉の間に「の」という言葉を用いるだけで済みます。ところが、アイヌ語ではそれに関して二通りの表現をします。今回はその一つ、名詞の所属形について学びます。

アイヌ語の名詞には「概念形」と「所属形」という二つの形があります。例えば「足」という言葉について、概念形は cikir ですが、これは誰のものでもない抽象的な「足」という概念を表しています。それに対して現実存在する

「足」は誰かのものなので所属形 cikiri が用いられます。これは「~の足」という意味です。多くは体の部位など何かの一部であるとか何かに属しているという意味あい用いられます。ですから意味上所属形のない名詞もあります。

さて、この所属形を用いて「Aさんの足」という時には A cikiri となります。「私の足」という時には Kampinuye 5 で学んだ「私は」という主語の形の人称接辞 ku= を用いて ku=cikiri となります。これも動詞の時と同じ様に cikiri だけだと「彼」、「彼女」、「それ」、「彼等」、「彼女等」、「それら」といった三人称の意味になりますので、「私」といった一人称、「君」といった「二人称」では、何度繰り返そうが、絶対省略してはいけません。日本語はそういう表現を嫌いますが、例えば「私は自分の足を見る」という時は ku=cikiri ku=nukar となりますので、充分注意して下さい。

3. 名詞の所属形の作り方

基本的に概念形の語尾が母音ならばそのまま、子音で終わっていれば a、i、u、e、o の何れかの母音を付けて作ります。例を示すと以下の通りです。

	概念形	所属形
母音で終り形が変わらないもの	sapa 「頭」	→ sapa 「~の頭」
aを付けて作られるもの	kisar 「耳」	→ kisara 「~の耳」
iを付けて作られるもの	cikir 「足」	→ cikiri 「~の足」
uを付けて作られるもの	nan 「顔」	→ nanu 「~の顔」
eを付けて作られるもの	tek 「手」	→ teke 「~の手」
oを付けて作られるもの	par 「口」	→ paro 「~の口」
特殊なもの	ru 「道」	→ ruwe 「~の道」
	ci 「男性器」	→ ciye 「~の男性器」

これらは原則として一つ一つ覚えていかねばなりません。



付録 身体に関する言葉

askepet 「指」	→ askepeci 「~の指」
capus 「唇」	→ capusi 「~の唇」
cinkew 「腰」	→ cinkewe 「~の腰」
etu 「鼻」	→ etu 「~の鼻」
hanko 「へそ」	→ hanko 「~のへそ」
hon 「腹」	→ honi 「~の腹」
kakka 「女性器」	→ kakka 「~の女性器」
kokkasapa 「膝頭」	→ kokkasapa 「~の膝頭」
kukew 「肩」	→ kukewe 「~の肩」
nimak 「歯」	→ nimaki 「~の歯」
nisapmekka 「すね」	→ nisapmekkasi 「~のすね」
numa 「体毛」	→ numa 「~の体毛」
om 「腿」	→ omi 「~の腿」
osor 「尻」	→ osoro 「~の尻」
otop 「髪の毛」	→ otopi 「~の髪の毛」
parumpe 「舌」	→ parumpe 「~の舌」
penram 「胸」	→ penramu 「~の胸」
rannuma 「眉毛」	→ rannuma 「~の眉毛」
rar 「眉」	→ raru 「~の眉」
rek 「ひげ」	→ reki 「~のひげ」
rekut 「首」	→ rekuci 「~の首」
sanketapsut 「下膊」	→ sanketapsutu 「~の下膊」
setur 「背中」	→ seturu 「~の背中」
sik 「目」	→ siki 「~の目」
sittok 「肘」	→ sittoki 「~の肘」
tapsut 「上膊」	→ tapsutu 「~の上膊」
tekkup 「手首」	→ tekkupi 「~の手首」
tokap 「乳房」	→ tokapu 「~の乳房」
ure 「足首から下の足」	→ ure 「~の足首から下の足」
yatuypok 「腋の下」	→ yatuypoki 「~の腋の下」
yontekkam 「ふくらはぎ」	→ yontekkami 「~のふくらはぎ」

私の家族

— 所有に関する二つの表現



例文

1. Ku=aki ek.
クアキ エク (私の弟が来た。)
2. E=akihi e=saha tura arki.
エアキヒ エサハ ドラ アラキ (君の弟が君の姉と一緒に来た。)
3. Kor katkemat anakne sonno kewtumupirka.
コロ カツケマツ アナクネ ソンノ ケウドムピリカ
(彼の奥方というのは本当に(とても)心が美しい。)
4. Ku=yupi kor maci kor sitoki ku=nukar.
クユピ コロ マチ コロ シトキ クヌカラ (私の兄の妻のシトキを私は見た。)



単語

アイヌ語	品詞	日本語訳
aki	名詞	(ak「弟」の所属形の短形) ~の弟
akihi	名詞	(所属形aki「~の弟」の長形) ~の弟
anakne	副助詞	~というものは、~というものを
arki	自動詞	複数がある(注:単数形 ek)
katkemat	名詞	①奥方、②立派な女性
kewtumupirka	自動詞	心が美しい
kor	他動詞	~の、~を持つ
maci	名詞	~の妻(注:matの所属形だが、概念形のmatが「妻」の意味では用いられた例は未確認)
saha	名詞	(sa「姉」の所属形の長形) ~の姉
tura	後置副詞	~と一緒に
yupi	名詞	(yup「兄」の所属形の短形) ~の兄



今日の学習

1. 所属形の短形と長形

前回アイヌ語で「AのB」という時に「~のB」に当たる名詞は所属形になる事を学びました。例文1の aki は ak という名詞の所属形です。ところが例文2では同じ所属形でも akihi という形が出てきます。実は所属形といっても、その全てに二つの形態があるのです。前回学んだ全ての形や aki の形を「短形」と呼びます。それに対して akihi は語形が長い事から「長形」と呼びます。

長形の作り方はとても簡単で aki の様に語尾の母音が i なら h を挟んでもう一度同じ母音を繰り返す、つまり aki+hi の形にするだけです。前回母音で終わる単語は変化しませんでした。長形にするにはそのまま今の要領で、短形が sa ですから sa+ha、つまり saha の形にするだけです。

尚、短形と長形の間には口調を整える以外意味の違いはなく、sa や aki といった短い言葉により多く長形の使用が見られます。今後単語を紹介する際、例文に出てきた時を除き、所属形は短形のみを記します。

2. 他動詞 kor を用いた所有の表現

「AのB」という表現には二つあると述べてきましたが、その一つとして名詞の所属形について説明してきました。もう一つは例文3、4に見られる他動詞 kor を使った表現です。「~の」と訳されますが、アイヌ語ではあくまでも「~を持つ」ですから、所有できる対象以外には原則として用いられませんが、例えば「言葉」などかなり抽象的なものにも用いられ、その使用範囲は原則を越え、今尚拡大していると言ってよいでしょう。

さて、この表現では kor の後の名詞は本来概念形であったと言います。例文3の kor katkemat がそれを示しています。しかし早い時期から混乱が生じ、例文4の ku=yupi kor maci の様に kor の後に所属形が用いられる例も沢山あります。

3. 副助詞 anakne

何かを取り立てて「他の人、物はいざ知らずこれこそ」と言いたい時に用いられます。現在あたかも日本語の「は」の様に理解されていますが、主語となる言葉だけでなく Sake anakne somo ku=ku.

酒というものを私は飲まない。

という様に、目的語となる言葉とも用いられますので、注意して下さい。

4. 親族名称の所有表現について

例文に見られる様に親族関係の所有表現には所属形のみを用いるもの、korのみを用いるもの、両方を用いるものの3種類があります。これは方言によっても違うようです。以下に、その主なものを分類しておきますので、大変でしょうが覚えて下さい。

①所属形のみを用いるもの

ona	父君、お父様	丁寧な言葉で、他人の父親の事を言う時の他、あらたまった場で他人に自分の父親の事を言う時に用いられる
unu	母君、お母様	丁寧な言葉で、他人の母親の事を言う時の他、あらたまった場で他人に自分の母親の事を言う時に用いられる
yup	兄	所属形は yupi。また呼びかけには yupo が用いられる
sa	姉	呼びかけには sapo が用いられる
ak	弟	所属形は aki
matak	(姉から見た)妹	所属形は mataki
mitpo	孫	

②korのみを用いるもの

maktaekasi	①曾祖父、②男系の先祖	
maktahuci	①曾祖母、②女系の先祖	
ekasi	祖父	
huci	祖母	
hampe	父、父さん	日常的に使われる言葉
totto	母、母さん	日常的に使われる言葉
katkemat	奥方、立派な女性	

③所属形と kor の両方を使うもの

maci	~の妻	korを用いる時でも所属形でしか用いられない
tures	(兄から見た)妹	所属形は turesi

以上の他「夫」については「Aの夫」A kor kur、「私の夫」ku=kor kurの様に用いられる。